



2025 年8月 14日

各 位

会 社 名 株式会社コンヴァノ
代表者名 代表取締役社長 上四元絢
(コード：6574 東証グロース)
問合せ先 執行役員 藤本光
(TEL：03 (3770) 1190 (代表))

業績予想の上方修正に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、最近の業績動向を踏まえ、2025年7月31日に公表した業績予想を下記のとおり上方修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正について

2026年3月期（2025年4月1日～2026年3月31日）通期業績予想数値の修正

(単位：百万円)

	売上収益	営業利益	税引前利益	当期利益	親会社の所有者に 帰属する当期利益	基本的 1 株当たり 当期利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	7,160	1,520	1,520	994	994	22.73
今回修正予想 (B)	8,460	3,035	3,035	1,985	1,985	45.39
増減額 (B-A)	1,300	1,515	1,515	991	991	—
増減率 (%)	18.2	99.7	99.7	99.7	99.7	
(ご参考)前期実績 2025 年3 月期	3,241	135	128	78	78	1.80

(注)当社は、2025年8月2日付で普通株式1株につき10株の株式分割を行っております。「基本的1株当たり当期利益」は、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたものと仮定して算定しております。

2. 2026 年3月期 通期業績予想の修正理由

当社グループは、2025年7月31日に公表した2026年3月期通期業績予想を、最近の業績動向を踏まえ、売上収益を8,460百万円（前回予想比+1,300百万円）、営業利益を3,035百万円（同+1,515百万円）へと上方修正いたしました。売上の上振れ幅を大きく上回る営業利益の増額は、事業ポートフォリオの質的転換が進展し、高付加価値・高マージン事業の比重が想定以上に高まったことを主因とするものです。経済環境の変動にも左右されにくい“質的転換”が進んだことを、今回の修正値が端的に示しています。

ネイル事業につきましては、7月末時点ではデータドリブンな需要予測システムの本格稼働に伴うスタッフ配置最適化が8月末以降に効果を発現する見込みとしておりましたが、8月前半までの実績データ検証の結果、予

約充足率の改善（ピーク帯の稼働最大化）が早期に顕在化し、シフト再編による効率化が前倒しで寄与いたしました。さらに、サプライチェーン再編の成果として主要資材の集中購買・物流動線の単純化が進み、原材料の平均調達単価を引き下げることができました。これらの結果、売上収益は前回見込みから上方修正し、営業利益も前回予想250百万円から260百万円へと10百万円増額いたしました。今回の改善は一過性の「切り取り型コスト削減」ではなく、サプライヤー再編と需要予測アルゴリズムを核としたデータに基づく構造改革であり、来期以降も効果が持続的に積み上がる見通しです。結果として、営業利益率は7.4%に到達し、日本の美容サロン業界平均を上回る水準を維持しております。

あわせて、当該構造改革により1店舗あたりの売上収益が改善し、投下資本回収の見通しが向上したことから、出店計画を一部前倒しで進めてまいります。具体的には、既存ドミナントエリアの空白商圏や大型商業施設内の好条件区画について、契約確度の高い案件から順次、当初計画より前倒しでオープンする方針です。人員面では、需要予測に基づくシフト設計と共通スキルマップの活用により、新店と既存店の可変的な人員循環を可能にし、立ち上げ期の固定費負担を抑制します。これにより、拙速な拡大による稼働低下や採算毀損のリスクを抑制しつつ、高採算フォーマットの横展開を加速させます。なお、業績予想への反映方針につきましては、リース契約締結済み・工期確定済みの案件については当期売上に限定的な寄与を織り込み、それ以外のパイプラインは保守的に見送りとしております。

また当社グループのインベストメント&アドバイザー事業は、①アセット再編、②M&Aアドバイザー、③組合型ファンド投資という三つのビジネスユニットを束ねた「資本戦略プラットフォーム」として機能しております。しかし8月上旬に、大型案件のM&A仲介成功報酬額と組合型ファンド投資案件の売却額が相次いで確定し、通期見通しに飛躍的なインパクトを与えています。通期業績に与えるインパクトが質量ともに飛躍的に高まったことから、8月14日公表の修正数値に反映する運びとなりました。今回の修正後、インベストメント&アドバイザー事業単体の売上収益は2,300百万円、営業利益は1,515百万円と試算されており、営業利益率は実に65.9%に達します。獲得資金は虎ノ門キャピタル株式会社の自己勘定投資原資として充当し、大型M&A案件やロールアップ戦略への再投資に振り向ける方針です。この資本循環モデル——「案件創出→投資・仲介→成果回収→再投資」——が、インベストメント&アドバイザー事業のパイプラインを雪だるま式に規模を拡大させ、利益の持続的成長を実質的に裏打ちしています。毎四半期ごとにより大きな投資収益を確保出来るように、「資本戦略プラットフォーム」を確立してまいります。

このように、インベストメント&アドバイザー事業は当社グループの「攻め」の機能を担い、アセット再編・アドバイザー・ファンド投資という三本柱のいずれにおいても収益化ステージへと移行いたしました。ネイル事業のコスト最適化という「守り」の成果と相まって、今回の通期業績予想修正では営業利益率が35%以上と事業ポートフォリオの質的転換が進展し、高付加価値・高マージン事業の比重が想定以上に高まったことを主因とするものです。雪だるま式資本循環モデルという資本市場における当社の収益多様化モデルが実証された形となっております。

なお、2025年7月31日付「新たな事業（AIデータセンター事業）の開始に関するお知らせ」にてお知らせしたAIデータセンター事業、2025年8月5日付「オプション取引によるビットコイン・インカム事業の開始に関するお知らせ」でお知らせしたオプション取引によるビットコイン・インカム事業及び2025年8月6日付「データセンター活用型グリーン・ビットコインマイニング事業の開始に関するお知らせ」でお知らせしたデータセンター活用型グリーン・ビットコインマイニング事業は大きなポテンシャルを有しておりますが、今回の業績予想にも定量的影響をまだ織り込んでおりません。影響額の蓋然性が高まり必要があれば、速やかに適時開示を行う予定です。

今後も、市況動向や規制改定等に伴うリスクを継続的に監視しつつ、機動的な資源配分と慎重なリスク管理によって、株主価値の最大化に努めてまいります。

【各事業の売上収益、営業利益の予想数値の修正推移】

(単位：百万円)

		ネイル事業	コンサルティング事業	ヘルスケア事業	インベストメント&アドバイザリー事業	連結修正	連結財務諸表
5月15日付開示 業績予想	売上収益	3,273	518	953	1,105	△250	5,600
	営業利益	226	74	125	85	—	510
6月19日付開示 業績予想修正	売上収益	3,300	1,050	1,700	1,200	△250	7,000
	営業利益	250	220	520	10	—	1,000
7月31日付開示 業績予想修正	売上収益	3,300	1,100	1,810	1,200	△250	7,160
	営業利益	250	430	830	10	—	1,520
8月14日付開示 業績予想修正	売上収益	3,500	1,100	1,810	2,300	△250	8,460
	営業利益	260	430	830	1,515	—	3,035

(注) 百万円未満を四捨五入して記載しております

3. 今後の見通し

当社は2025年6月19日に「中期経営計画の修正に関するお知らせ」を公表しております。同計画では、2027年3月期に売上収益15,000百万円、営業利益3,000百万円を目標としております。

なお、業績予想は現時点の情報および合理的な前提に基づいておりますが、経済環境の変動等により実際の業績が記載数値と大きく異なる可能性があります。当社は、重要な進捗や前提条件の変化が生じた場合には、速やかに開示を行い、投資家の皆様との情報ギャップの最小化に努めてまいります。

以上